



福山西ロータリークラブ 例会情報



(2020~2021年度)

[第 1426回例会]-(16)

会 長 佐藤 教夫 幹 事 瀬尾 義裕

クラブ会長テーマ

「ひろげよう、ロータリーの輪を」

日 時	2020年11月17日(火) 12:30~13:30
場 所	福山ニューキャッスルホテル
例会行事	点 鐘・ソング「我等の生業」 ゲスト・ビジターの紹介(出席報告参照) 食 事
例会情報	会 長 報 告 幹 事 報 告 出 席 報 告 S A A 報 告 ス マ イ ル 報 告 プ ロ グ ラ ム 情 報 ・ゲスト卓話：鐘尾 光世 様 そ の 他 報 告
その他情報	メークアップ情報(来週分) メークアップ情報(再来週分) 今 後 の 行 事 予 定 ク ラ ブ 活 動 報 告

*Ctrlキーを押しながらクリックするとそのページが表示されます。

【 会 長 挨拶 】

最近、また新型コロナ感染第3波が来る、という報道が出始めました。

5月に石岡さんに送って頂いた、田中毅 PDG の「武漢コロナウィルスのすべて」を再度読み返してみました。

「マスコミがなぜこの病気の事をセンセーショナルに報道するのでしょうか」という所があります。半年前に読んだ時は、あまり印象に残りませんでした。今現在、アメリカの大統領選挙も終わったこの時期に、改めて読ませて頂きますと、共感する事が多々有ります。

以下抜粋しますと

- ・ マスコミがセンセーショナルに報道する原因の一つに「アメリカ大統領選挙」がからんでいる
- ・ トランプ大統領の再選は確実視されていた
- ・ FOX,フィナンシャルタイムズ以外のマスコミ、新聞、映画会社は民主党の傘下
- ・ 大都会の知事は全員民主党である
- ・ コロナをネタにして、トランプ大統領の指示率を下げ、民主党が政権を取りたい
- ・ 武漢ウィルス騒動も、民主党と中国が仕組んだという人もいる
- ・ 日本ではNHKを始め、マスコミはCNNのニュースしか放送しない
- ・ マスコミの脅しに屈せずそろそろ日常生活に戻すべき
- ・ この武漢ウィルスを絶好の機会として、新しい奉仕活動を見つけて下さい
- ・ 困っている会員さんがいたらネットワークを駆使して、助けてあげて下さい
- ・ 物質的ではない経営学に基づいた援助
- ・ 6月末には一人の退会者を出さない様に、連携を深め、難局を乗り切る

今回の大統領選挙は、民主党による不正があちこちで指摘されています。

結果がまだ出ていないにも関わらず、勝手に勝利宣言をしています。

日本のマスコミもバイデンさんが勝ったという前提で報道していますが、不正が明らかになり、結果が逆転し、誤報だったらどう説明するつもりでしょうか。

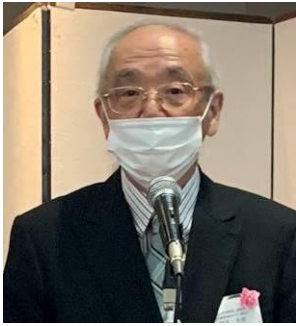
田中 PDG は、このウィルスの騒ぎを絶好の機会と捉えて下さいと言われていました。

6月末には、一人の退会者を出さない様にとの事でしたが、残念ながら出していました。今後どう連携をとるのか、会員増強、退会防止にどう繋げて行くのか、皆様と一緒に考えてみたいと思います。

この件にも関連しますが、二回目の戦略会議の準備と致しまして、アンケートをお願いしたいと考えておりますので、どうぞ宜しくお願いします。

[表紙へ](#)

【プログラム情報】



【ゲスト卓話・・・福山城博物館 前館長 鐘尾 光世 さん】

《福山城天守北面の鉄板張りと城東町屋への上水道取入れ口、
そして城下町の拡大と整備》

1 天守北面の鉄板張り

この写真(2)は明治 24 年 1 月元旦に撮影された鉄板張りの姿である。周囲に城郭の面影がまったく見えなくて、本丸北隅にポツンと淋しげに立っている。北面は地階から 4 階上端まで鉄板張りだ。鉄板張りで取付の仕方が鎧張りだった。



北東面

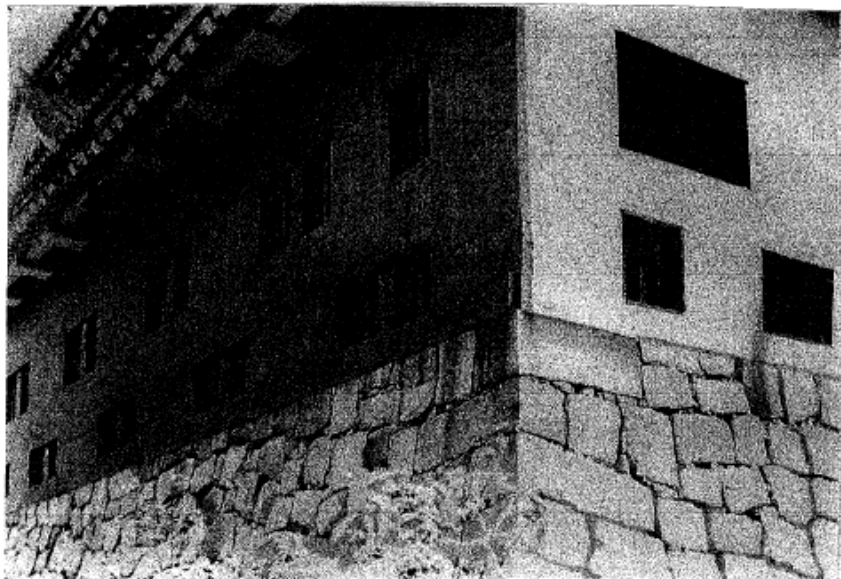
北東面の天守櫓(北面の鉄板張り)

明治24年1月元旦



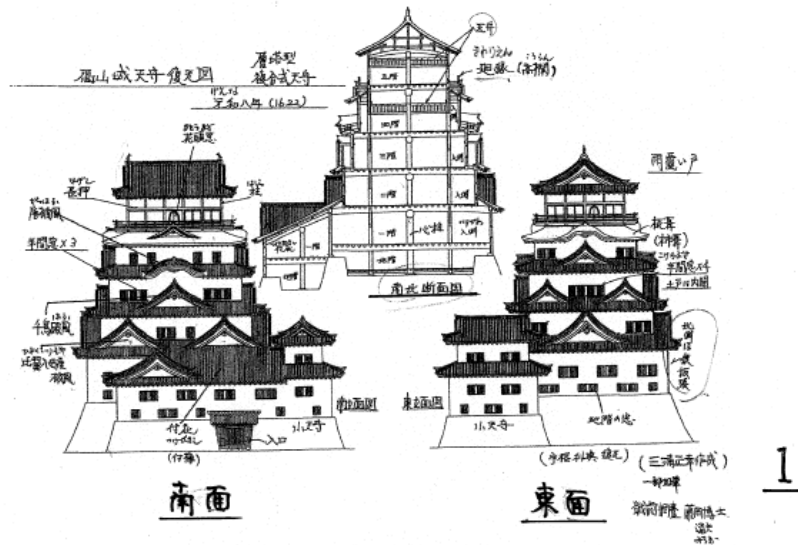
安部氏邸(右端)

その様子が次の写真(3)で窺える。



天守櫓北面の鉄板張りの様子

天守復元図(1)では、

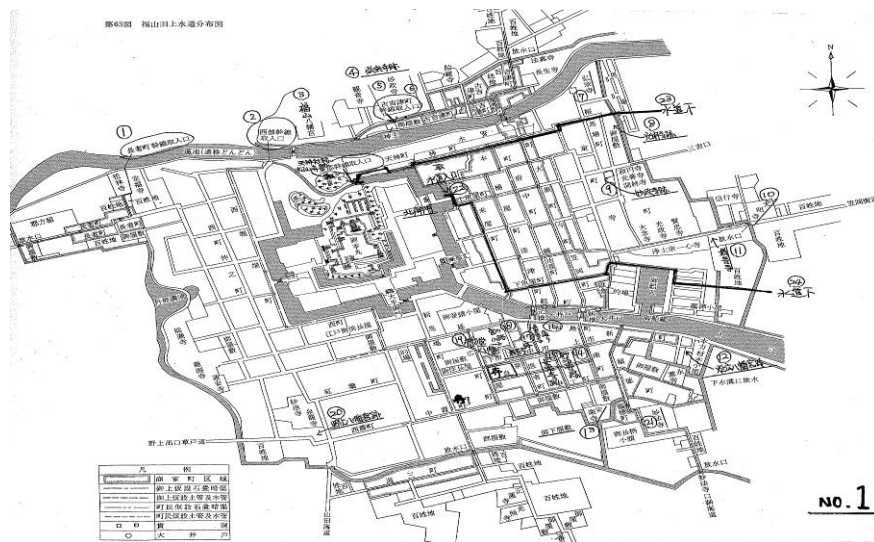


姿図を見れば最上階は 5 間×4 間の広さで、南面は中央に花頭窓があり、柱と長押の型が表わされた古いタイプの壁の塗り方が見られ、四周は廻縁(高欄)が付いていた。それを囲むように雨覆い戸がめぐらされて風雨を凌いだのだった。

鉄板張りについては、城の北面が防御性に欠けるので、その補強策だといわれてきた。全景復元絵図を見ればその理由は一目瞭然だ。内堀・外堀共に北側で繋がらなく、その欠点を、北側を流れる吉津川が補完していたと説明されてきた。明治直前、長州軍が福山城を攻めた時、やはり両社八幡のある北方から鉄砲の小競り合いが始まったという。考えてみれば、福山城は戦国時代の城郭ではなく、近世江戸時代の城で、戦いも無い平和な時代の築城であって、天守無用論さえ囁かれていた。だが、さすがに、福山城本丸南側には京都の伏見城から三階櫓(伏見櫓)、筋鉄御門、伏見御殿などが移築されてその偉容は輝かしい光景で、その北端に五重の天守閣が聳えていたことを考えると、最早、城郭は威厳が保てれば良いというその時代の要請に答えられるだけで良いと考え、大切な財源の無駄使いはされなかったのだろう。

2 城東町屋への上水道取入れ口

福山城下町形成期に最も必要とされたものの1つに、上水道の敷設があげられる。福山旧上水道分布図(No.1)には、



城下の人々に配水するための取り入れ口は、長者町方面、武家町の西町・南町方面、城東の町人町方面、そして妙政寺下の古吉津方面のものが確認されている。

幕府へ提出した正保絵図や小場家文書の城内図、そしてこのたび解明された城下図などに町屋への取り入れ口として、東堀端北御門前の土橋の根元あたりに図示されていることが確認できた。

以前から外堀に架かる三つの橋は木橋なのに、北御門の橋は土橋でなければならない理由が見つけれないでいた。その土橋根元に取り入れ口が設置されていることを考えれば納得できる。通称どんどんと呼ばれる場所が第1ならば、北御門土橋の北側は、さしずめ第2どんどんと呼ばれるものでなかろうか。堀と貯水池を兼ねていたのだった。そして、藩主屋形にも送水されたと想像がつく。

そのコースは、東部幹線取入れ口から1つは天神町前を通過して真東に進み、胡町を過ぎて桜馬場を突っ切って、③水道下で放水されるもの。別の1つは、東部幹線取入れ口から北御門土橋の水道樋口から上魚屋町へ出るとすぐ、米屋町を南下し、堀川へ突き当たる手前の下魚屋町で折れて東行し、笠岡町を抜けて御船入を周回して水主屋敷をつきぬけて④水道下へ放水されるコースである。

この上水道は、藩府で石畳暗渠と土管・木管、そして町屋で同様の諸施設を設備された。

3 そして拡大する町屋

城下町の西部から南部は武家屋敷が立ち並んで江戸時代を通じてさして人口の変化は無かったろうが、町屋は拡大の一途をとる。

山陽道から城下への出入り口の1つに、吉津橋を渡ると胡町側に総門番所があり、通行人の取り締まりを行っていた。その胡町から大黒町へと向かう、南北の通りを通り町と呼ぶがこの通り町も町家の拡大で武家はその東部へ移転し、その名を東町としたことはよく知られている。また、「福山語伝記」などには、本橋(天下橋)より築切側すなわち下魚屋町角から対岸へ向けて古い橋が架けられていたと記録している。本橋を南へ渡ったあたりは最善寺があった通りで最善寺通り、さらに1本西側でとちゅうで1つ折れた宮の小路には惣堂八幡宮があった。そしてこの八幡宮は御船入り下の堀川南岸に移転し(延広八幡宮と改称)、さらに城下西南の野上八幡宮と共に二つ合わせて両社八幡宮(現：福山八幡宮)と何度となく移転して城下町が整備され、総構えが成立したのである。

また、神島上・中・下三町の南から中町・大工町あたりには妙法寺と安楽寺が配置されていたが、御下屋敷の東側あたりに移転して町屋は発展を続けている。新橋(木綿橋)が架けられると通り町は更に南へ延び、現在の霞町辺りまで多くの町家が成立した。

それに、城下町全体で見ると、東町から寺町、神島三町の南北地域、さらに城下西周辺には南から妙蓮寺、泉龍寺続いて通安寺、龍淵寺、能満寺、そして能満寺池の北方には西町の定福寺と松林寺、また城背には、三蔵稲荷神社と天神社と松山寺、吉津川北岸には、福山八幡宮、龍興寺、良神社、観音寺、妙政寺、胎蔵寺など、城下町全体が寺社で取り巻かれている姿が見て取れます。

このように、私たちの町「福山」は、城下町なのです。その成り立ちを誇りにしたいものだと思います。